

学位被授与者氏名	貫田 瑛（ぬきた あき）
論文題目	初期日本天台教団の動向 - 座主後継問題を中心に -
論文審査結果の要旨	<p>筆者自身結論において述べていることであるが、教団の首座である「座主」の名称、およびそれが宣旨職として制度化された時代とその事情背景が根本的課題として残されている。また最澄が義真を後継者に指名したことについては僧次以外の要因もあるはずだが、その点が考究されていないことも残された課題である。</p> <p>しかしながら難解な光定の『伝述一心戒文』を読解して、従来の先行研究に対して説得力のある批判をしたこと、また僧次に関する最澄の見解を明らかにして、当時の天台教団における具足戒と大乘菩薩戒の位置付けの一端を明らかにしたことなど、多少の修正を加えれば査読のある学術雑誌に研究論文として発表できる水準に達していると評価できる。筆者の今後の研究目標である天台宗の山門派・寺門派分裂の要因の解明につながる基礎を固めた研究といえよう。</p> <p>平成 28 年 2 月 24 日に、北九州市立大学北方キャンパス本館 E313 教室において審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して、学力を確認し、質疑応答ののち、全員一致で当該論文が修士（比較文化）として十分な内容であると判定した。</p>